

第2章 熊本市及び史跡周辺の概要

第1節 地理的環境

(1) 熊本市の位置・地勢

熊本県は九州地方の中央部に位置し、その県庁所在地である熊本市は熊本県の西北部に所在する。熊本市の地勢は、北東部の京町台地・託麻台地と西南部に広がる沖積低地により形成される。水系は、阿蘇外輪火山を源とする白川が市中央部を貫流し、白川によって運ばれた砂礫や火山灰は託麻台地端部に扇状地を形成し、広大な沖積平野（熊本平野）をなす。白川、坪井川、井芹川、加勢川、緑川等の諸河川が下流部の熊本平野を潤し、有明海へと注ぐ。

熊本平野の北側は、北西部に位置する金峰山を主峰とする複式火山帯と、元来は同火山帯と一続きだったが後に分断された立田山等の台地からなり、県北の菊池平野と画されている。平野東側は阿蘇外輪火山群の裾野にあたる丘陵地帯であり、平野との境は複雑に入り組んでいる。南側では緑川水系と平野が広がり、台地や丘陵によって寸断されながら八代平野に至る。平野の西側には、水田として利用されている干拓地があり、有明海に面している。阿蘇周辺に降った雨水は地下に浸透して豊富な地下水となり、台地端部で水前寺成趣園や江津湖などの地表に湧出する。

豊富な湧水は市域における遺跡の成立に大きく影響を与え、市城南側の沖積平野では白川や緑川などの現流路沿いに自然堤防が散在する。これが微高地となって枝状に発達し、白川を基準に南へ向かって扇状に広がる。熊本市一帯には、阿蘇火山の火砕流を伴う大噴火の影響より、約9万年前に Aso-4 火砕流堆積物が堆積した。その後、河川によって浸食され、各地に火砕流台地が形成される。さらに、その生成過程で河岸段丘も形成された。中央区京町付近から北区植木町方面へ続く京町台地も、この Aso-4 火砕流堆積物からなる台地である。なお、熊本城はこの京町台地の南端に位置し、火砕流台地は先に述べた金峰火山の山麓にも分布している。

(2) 史跡周辺の位置と地勢

西南戦争遺跡が所在している熊本市北区植木町は、熊本市の西北部、東経 130 度 41 分、北緯 32 度 54 分に位置する。熊本市北区植木町の前身である旧植木町は、平成 22 年（2010）に熊本市と合併し、平成 24 年（2012）の政令指定都市移行に伴い、旧植木町の全域が熊本市北区に編入された。



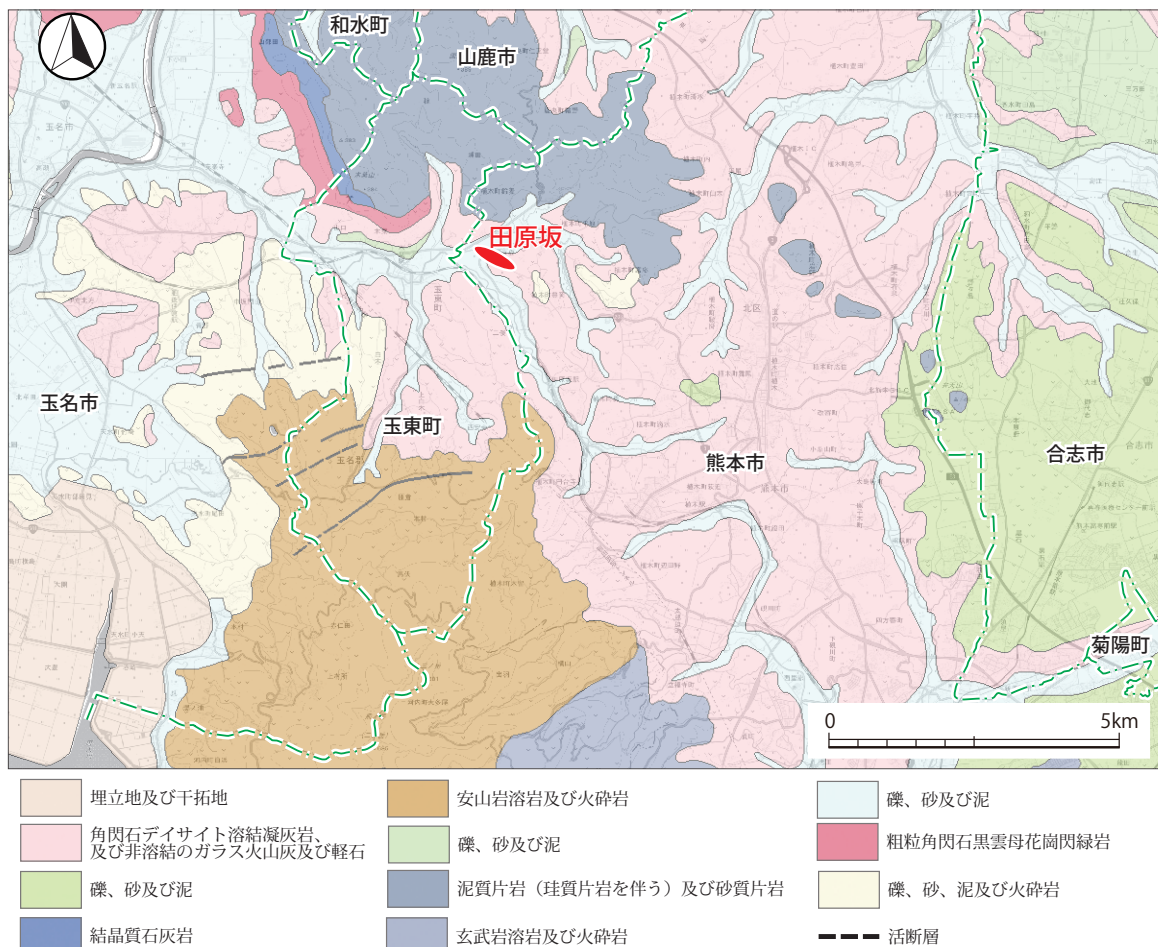
図■ 熊本市位置図

植木町の地勢は、熊本県における洪積台地の典型とされる広大な肥後台地のうち、北西端に形成された植木台地とそれを開析する大小の谷部からなる。植木台地は標高約 60 ～ 100 m、南北方向に長い台地であり、東は菊池川支流の合志川と白川支流の坪井川によって画され、西は金峰山系の三ノ岳山体に接している。北には菊鹿盆地が広がり、南には京町台地が連続しており、その向こうに熊本平野が開けている。

本計画で主に取り扱う西南戦争遺跡は、植木台地の西部、豊岡台地と通称される半独立丘陵とその周辺に存在している。豊岡台地は西側を菊池川支流の木葉川に、東側と北側をその支流の中谷川によって浸食された、南北延長約 1.6 kmの南北方向に長い台地である。南側は東西両方向からの浸食谷によって緩やかに分断され、付近の字を「境」（大字豊岡の南端）と言い、以南を大字「轟」という。台地傾斜は急こう配で、縁辺には小支谷が複雑に入り組んでいる。これによって分断された舌状の小丘陵が発達しており、戦時においては守備に適した要害地形と言える。本台地には旧三池往還が貫通しており、そのうち北西部の長さは約 1.5 km、標高差 80 mの坂道が田原坂である。

(3) 地質

西南戦争遺跡が所在する豊岡台地は、変成岩類（泥質片岩及び砂質片岩）から成る北側の山地（国見山・金比羅山）と、安山岩溶岩及び火砕岩から成る南方の金峰火山（三ノ岳）との間に位置している。その地質は、谷を隔てた玉東町側の台地と同様に、阿蘇火砕流堆積物（主に角閃石デイサイト溶結凝灰岩・非溶結のガラス火山灰及び軽石）より形成される。



図■ 史跡周辺の地質

第2節 社会的環境

(1) 人口

熊本市は、平成3年（1991）2月に北部町、飽田町、天明町、河内町と合併し、平成20年（2008）10月には富合町、平成22年（2010）3月には城南町、植木町と合併して市域が拡大する。面積390.32平方キロメートル、人口約74万人の市となり、平成24年（2012）4月に全国で20番目、九州で3番目の政令指定都市へと移行した。

市内の人口は令和2年（2020）に初めて減少に転じ、年齢3区分では平成12年（2000）に65歳以上人口が15歳未満人口を上回って以来、高齢層の増加が顕著である。15歳未満および15～64歳の人口は緩やかな減少傾向にあり、全国的な高齢化社会の様相と同様である。

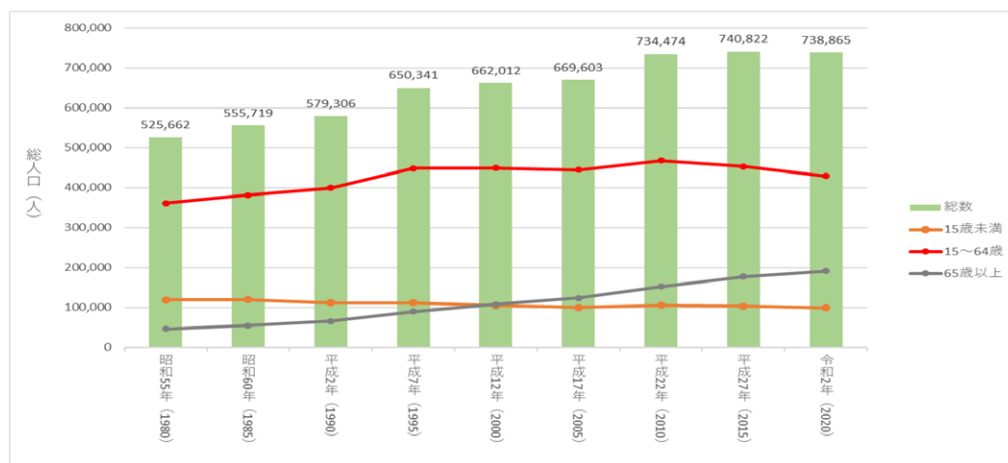
西南戦争遺跡が所在している北区の人口は、東区、中央区に次ぐ第3位である。北区内の校区別人口をみると、田原坂や七本官軍墓地が所在する田原校区は21校区中20番目、明德官軍墓地・寄鶴官軍墓地が所在する川上校区は5番目の位置にある。

北区全体の65歳以上の割合は、田原校区が区内で2番目に多く、川上地区は上から16番目である。高齢化率においても田原校区は上から2番目に位置し、川上校区は17番目にある。しかしながら、高齢単身世帯の割合で見ると田原校区は市全体と比べるとやや高いくらいの数値であり、高齢化率と高齢単身世帯が連動しているわけではないと思われる。

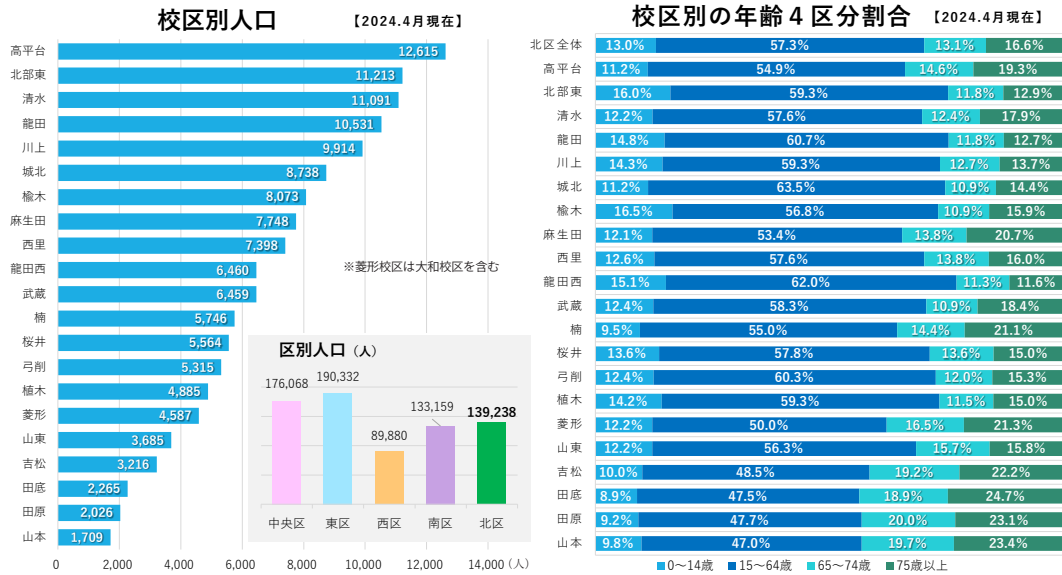
北区の小学校の児童数を平成28年（2016）と令和6年（2024）で比較すると、田原校区は減少しているが川上校区は増加している。また年少人口（15歳未満の人口）の割合も小学校の児童数とほぼ比例している。

一方、令和4年（2022）以降、市全体で外国人人口が増加傾向にある。北区の外国人人口は市内第3位であり、区内の全ての校区で増加している。特に龍田校区が顕著で、半導体産業関連企業の進出による転入者の増加が関係していると思われる。

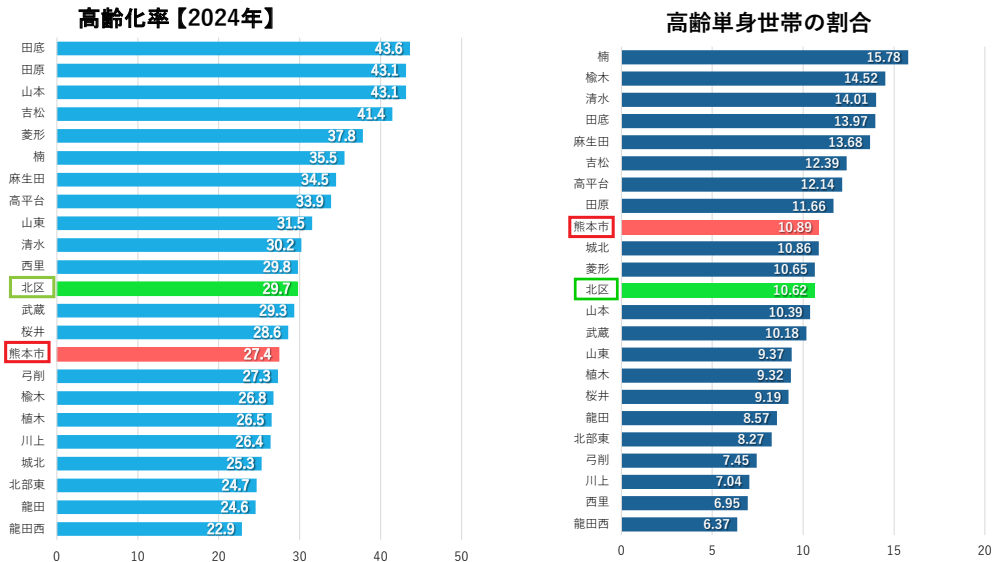
以上のことから、史跡周辺地域の人口比率、高齢化率、児童数の増減は市の中心部（中央区）からの距離におおむね比例するような様相であるが、一方で半導体産業関連企業の進出による外国人人口の増加があり、今後の史跡周辺地域の性質に大きな変化を与えられられる。



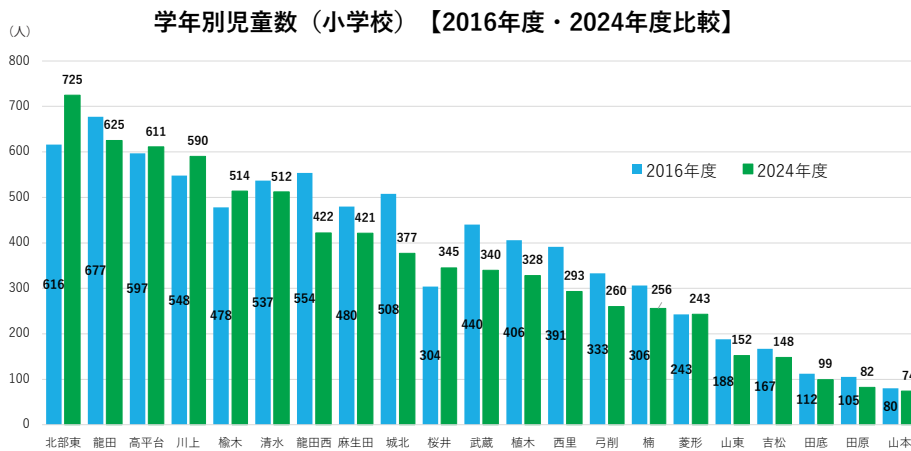
図■ 人口と年齢3区分別の推移(国勢調査の数値を基に算出) ※最終的には最新の情報に更新(令和7年国勢調査)



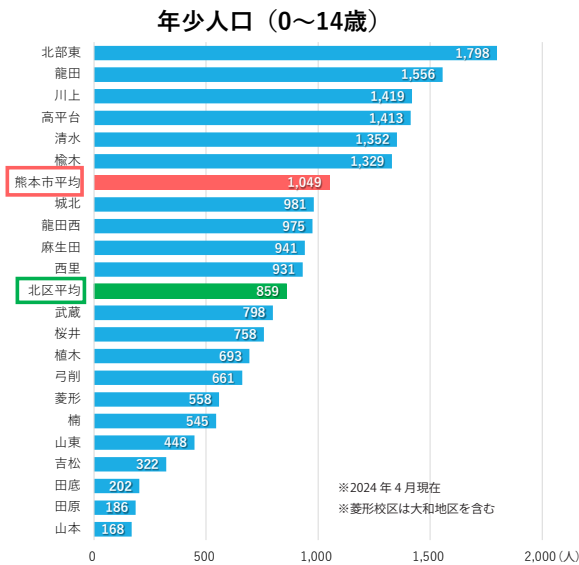
図■ 北区の校区の人口・構成 (出典：熊本市北区地域カルテ)



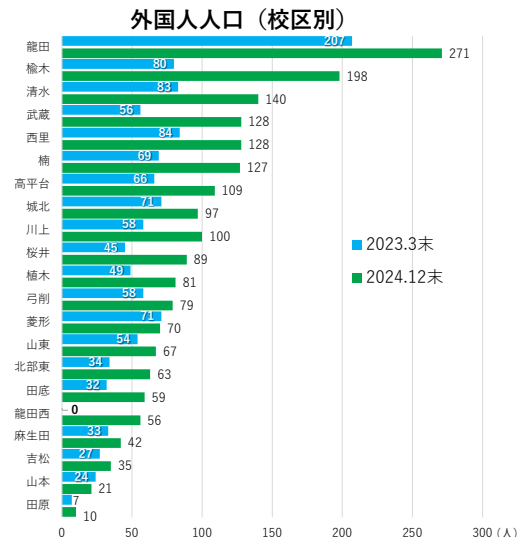
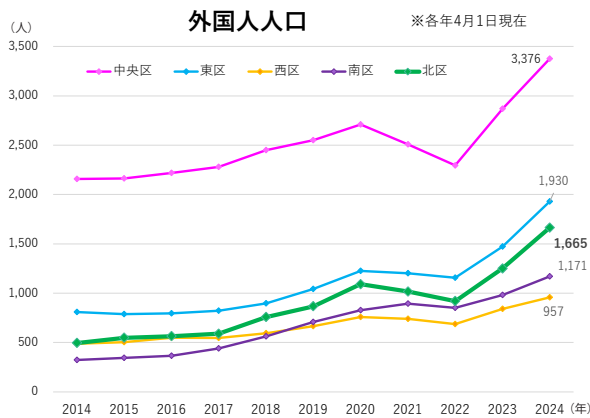
図■ 北区の高齢化率と高齢単身世帯の割合 (出典：熊本市北区地域カルテ)



図■ 学年別児童数 (小学校) (出典：熊本市北区カルテ)



図■ 年少人口 (出典：熊本市北区地域カルテ)



図○ 外国人人口 (出典：熊本市北区カルテ)

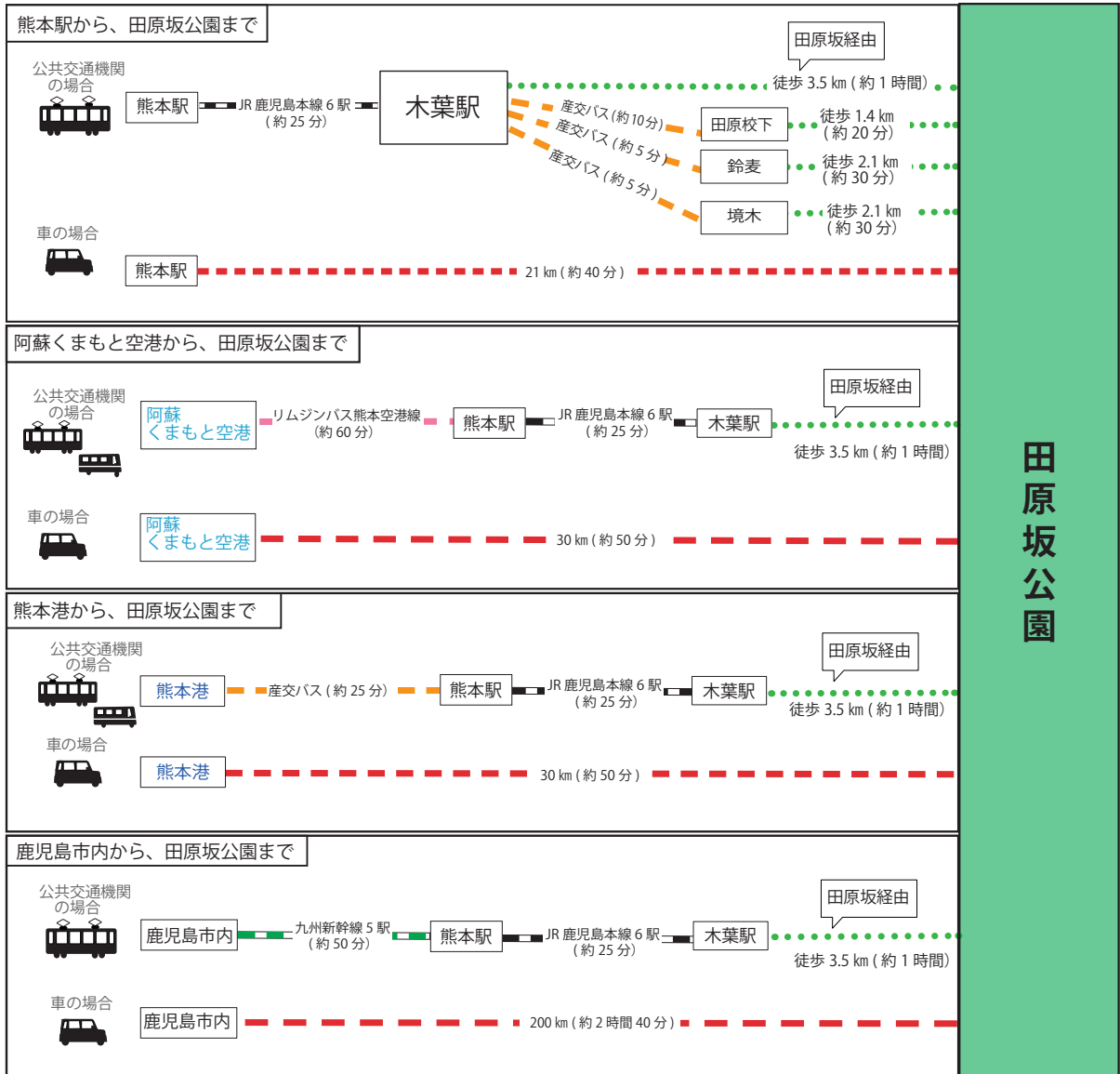
(2) 交通

鉄道はJR九州鹿児島本線、九州新幹線が熊本市の北西から南にかけて市域を縦断するように通っており、熊本駅、上熊本駅、川尻駅、植木駅などの駅を経由する。史跡(田原坂公園)周辺は田原坂駅もしくは玉東町の本葉駅が最寄り駅であり、各駅から史跡までは徒歩でおよそ1時間を要する。

道路は市域の南東から北東にかけて九州自動車道が通っており、史跡に近いICは福岡・長崎・大分方面からは植木IC、宮崎・鹿児島方面からは北熊本ICとなる。史跡までの所要時間は、植木ICからは車で約20分、北熊本ICからは約30分を要する。

市の中心地から史跡へのアクセスは、車であれば約40分、バスなどの公共交通機関を利用すると約1時間を要する。

以上の通り、熊本市域の西南戦争遺跡は市内外からのアクセスにおいて利便性が良いとは言い難い位置にある。



図■ 史跡へのアクセス時間

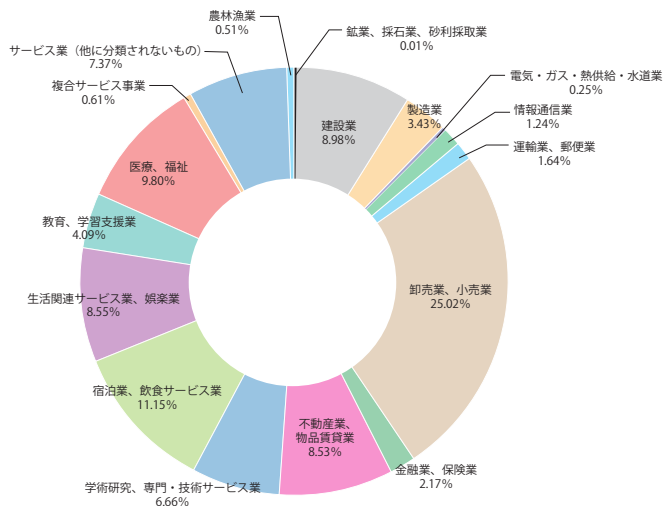


図■ 史跡へのアクセス

(3) 熊本市全体の産業

産業に関して、市全体で見ると全産業のうち約34%をサービス関連産業が占めており、次点で卸売業・小売業が盛んである。そのほか、農業産出額は政令指定都市では上位にあり、本市産業の特徴となっている。その一方、製造業の割合が低く、人口一人当たりの市内総生産は政令指定都市平均を下回っている。また、有効求人倍率が政令指定都市の中でも高く、人手不足が深刻化している状況がある。しかしながら、近年半導体企業の進出をきっかけとした関連産業の集積が進み、地域経済の発展が期待されている。

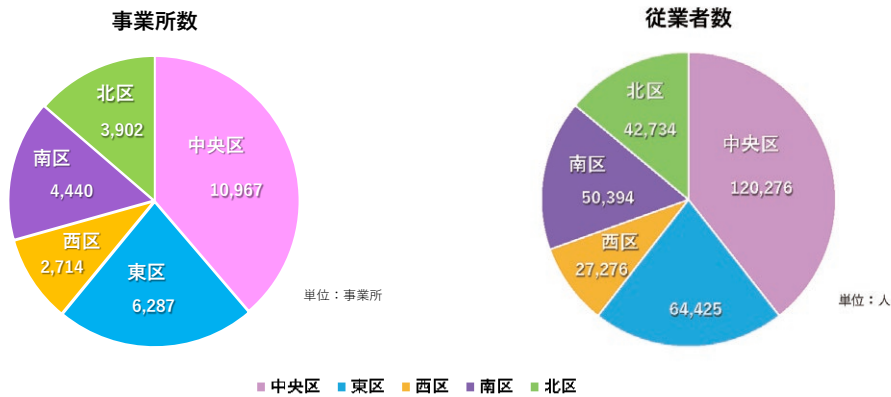
西南戦争遺跡が所在する北区で見ると、事業所数・従業者数は市内5区の中で4番目の位置にある(図○)。一方で、基幹的農業事業者は平成27年(2015)時点で5区中1位、令和2年(2020)



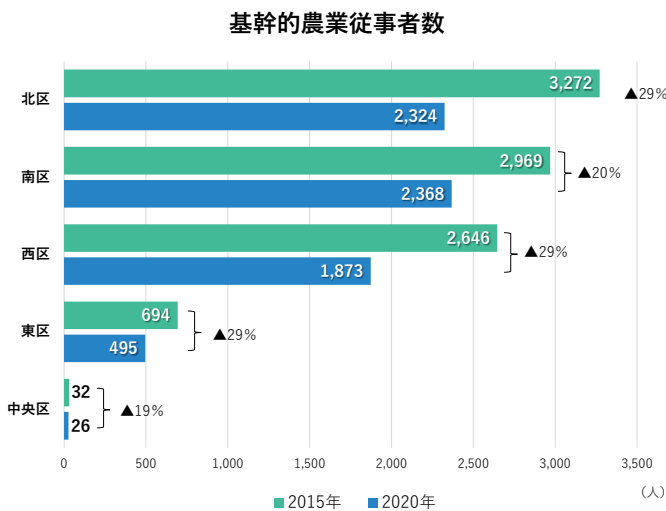
図○ 産業(小分類)別全事業所数
(参考:令和3年度経済センサス活動調査)

- 1 事業所とは、一定の場所を占めて、単一の経営主体の元で経済活動が行われている、あるいは従業者と設備を有して、物の生産や販売、サービスの提供が行われているものを指す。従業者とは当該事業所に所属して働いているすべての人を指す。
- 2 基幹農業者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者を指す。

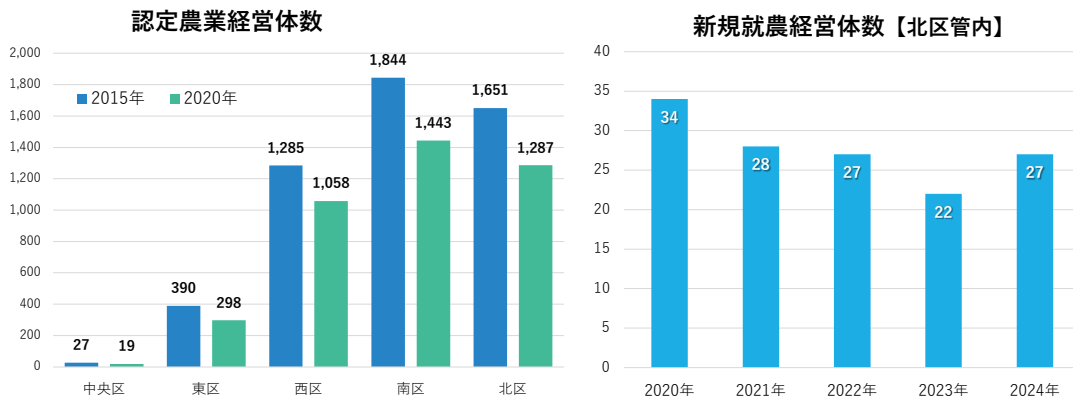
時点でも2位であり、認定農業経営体も全区中2位に位置する。新規農業就農者も令和2年（2020）年と比較すると減少してはいるが、令和6年（2024）は前年より増加しており、市内においては南区に次いで農業が盛んであると言える。史跡の近接地にもミカン畑が広がっており、そのほかスイカ、メロンなどの果樹・野菜の栽培が多い。このことから、前述の農業産出額は南・北・西の3区でその大部分を支えていると考えられる。



図〇 事業所・従業員数（出典：熊本市北区カルテ）



図〇 基幹的農業従事者数（出典：熊本市北区カルテ）



図〇 認定農業経営体数と新規就農経営体数【北区管内】（出典：熊本市北区カルテ）

3 認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農地所有適格法人のこと

(4) 観光

市全体でみると、熊本城、水前寺成趣園、動植物園の3施設を核として観光客数は増加傾向にある(表○)。特に令和6年(2024)からは、円安の進行による訪日外国人の急激な増加(表○)や、半導体産業関連企業の熊本進出による台湾をはじめとしたアジア各国との観光・ビジネス交流が活発化している。阿蘇くまもと空港では国際線定期便の新規就航や増便が相次いだことで外国人観光客が大幅に増加している。国内旅行者は九州地方からが最も多く、県内、近畿地方と続く(参考:令和6年(2024)熊本市観光統計)。

表■ 観光施設入園者数(令和6年(2024年)熊本市観光統計より抜粋)

施設名	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
熊本城(特別公開エリア入園者数)	360,855	844,916	1,303,929	1,418,105
桜の馬場 城彩苑	534,862	1,116,503	1,857,629	1,983,931
(うち熊本城ミュージアムわくわく座)	(85,040)	(182,038)	(250,974)	(281,210)
水前寺成趣園	135,517	219,078	345,633	440,093
熊本市動植物園	411,432	684,931	615,861	599,952
フードパル熊本	551,200	567,900	578,800	571,500
熊本博物館	55,546	93,236	106,829	99,729
水の科学館	20,433	31,938	46,687	63,199
峠の茶屋公園(資料館)	1,615	2,312	2,968	2,980
くまもと工芸会館	33,064	36,637	36,637	37,190
立田自然公園	3,392	6,020	5,407	4,505
北岡自然公園	3,073	3,950	4,580	3,179
旧細川刑部邸	34,549	29,464	49,164	(休館)
夏目漱石内坪井旧居	(休館)	(休館)	7,003	5,383
夏目漱石大江旧居	1,494	3,351	5,249	3,169
小泉八雲熊本旧居	2,236	5,290	7,983	6,835
徳富記念園	(休館)	49	1,278	971
横井小楠記念館	572	1,073	2,409	2,615
後藤是山記念館	341	570	492	466
リデル・ライト両女史記念館	365	891	971	1,186
御馬下の角小屋	689	1,080	1,244	1,044
熊本洋学校教師ジェーンズ邸	(休館)	(休館)	18,663	8,535
熊本藩川尻米蔵	(開館前)	(開館前)	1,107	2,065
森林学習館	1,302	2,241	2,661	3,125
熊本県伝統工芸館	65,112	63,412	68,141	37,193
熊本県立美術館 本館	38,104	95,046	220,674	77,622
熊本県立美術館 分館	44,965	43,227	47,811	38,901
くまもと文学・歴史館	21,376	33,274	39,727	38,319
監物台樹木園	2,679	(休館)	(休館)	8,986
岩戸観音・五百羅漢	9,697	11,127	11,817	13,617
島田美術館	3,156	2,895	3,732	4,720
新聞博物館	960	2,668	1,170	1,853

施設名	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
熊本国際民芸館	1,379	1,361	1,618	1,500
神風連資料館	411	476	532	1,640
金峰森の駅みちくさ館	5,918	8,698	12,145	9,711
熊本市現代美術館	124,079	82,380	98,782	174,998
熊本市塚原歴史民族資料館	1,718	2,790	3,599	4,724
田原坂西南戦争資料館	10,141	23,178	26,224	27,035
植木温泉	9,723	1,550	4,983	5,597
道の駅「すいかの里植木」	226,333	258,633	269,494	285,248
くまモンスクエア	65,981	96,305	222,034	451,867

表■ 宿泊状況（令和6年（2024年）熊本市観光統計より抜粋）

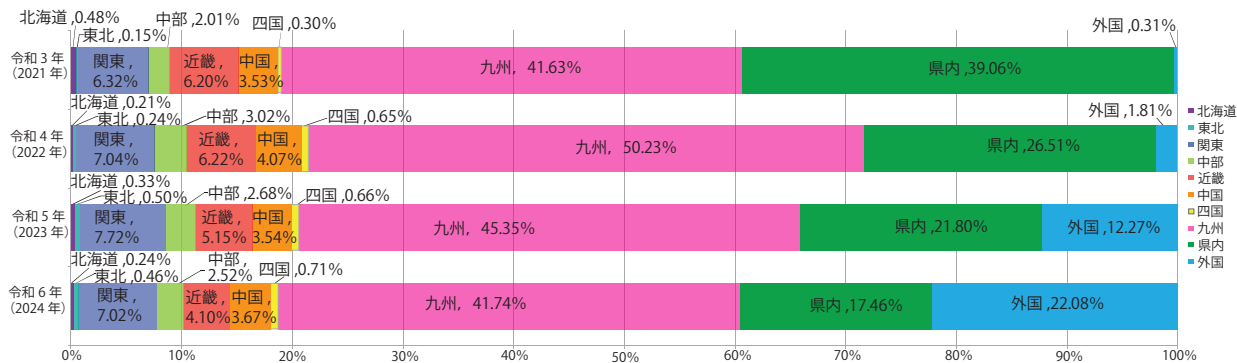
区分	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
国内客	1,831,821	2,563,376	3,099,895	3,133,840
外国人客	5,658	47,222	433,602	889,616
合計	2,819,249	1,837,479	2,610,598	4,023,456

表■ 外国人の国・地域別宿泊者数（上段：国籍、下段：宿泊者数）

（単位：人）

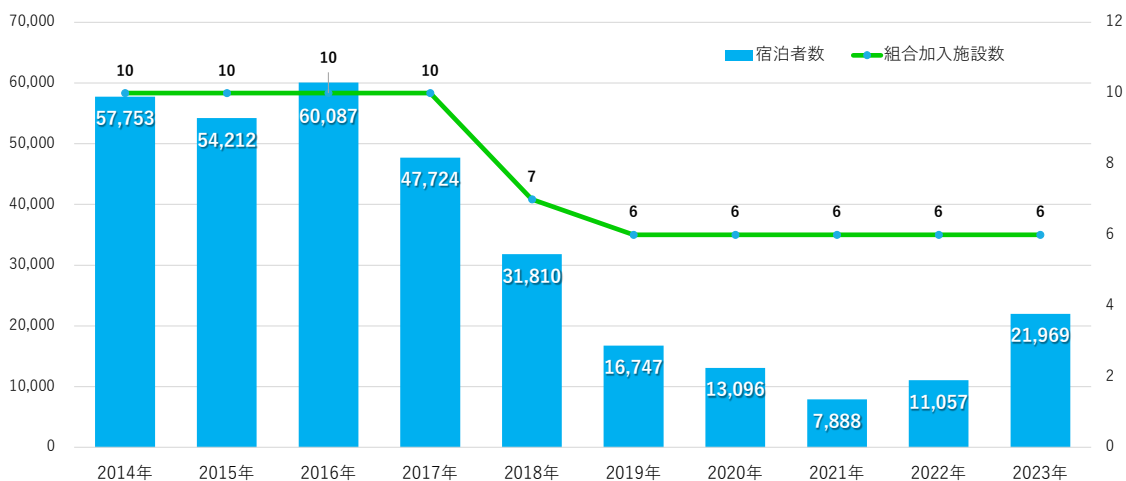
順位 年	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	その他	合計
平成27年 (2015年)	台湾	中国	韓国	香港	タイ	米国	シンガポール	オーストラリア	フランス	ドイツ	11,097	108,033
	21,807	21,634	20,566	15,101	6,538	4,171	3,320	1,463	1,189	1,147		
平成28年 (2016年)	台湾	中国	香港	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	ドイツ	フランス	11,657	104,404
	26,418	21,152	16,654	12,542	5,498	5,400	1,902	1,358	986	837		
平成29年 (2017年)	台湾	中国	香港	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	カナダ	マレーシア	32,579	182,353
	46,170	33,134	27,832	20,607	7,657	4,816	4,304	2,103	1,672	1,479		
平成30年 (2018年)	台湾	香港	中国	韓国	米国	シンガポール	タイ	オーストラリア	マレーシア	ドイツ	29,830	235,338
	59,079	46,060	44,640	29,888	7,604	5,715	5,030	2,748	2,628	2,116		
令和元年 (2019年)	中国	台湾	香港	韓国	米国	フランス	マレーシア	タイ	シンガポール	イギリス	71,668	342,649
	67,356	63,895	50,622	29,592	12,739	11,166	10,459	9,460	8,191	7,501		
令和2年 (2020年)	台湾	中国	香港	米国	韓国	マレーシア	タイ	シンガポール	イギリス	オーストラリア	7,774	48,977
	10,623	10,369	9,122	3,964	2,977	1,158	1,000	894	578	518		
令和3年 (2022年)	ドイツ	米国	インドネシア	中国	韓国	ロシア	タイ	イギリス	台湾	フィリピン	1,563	5,658
	1,141	821	718	655	230	186	133	79	66	66		
令和4年 (2022年)	台湾	米国	韓国	香港	中国	タイ	シンガポール	インドネシア	カナダ	マレーシア	15,977	47,222
	6,109	5,771	5,460	4,312	3,675	2,592	1,922	577	418	409		
令和5年 (2023年)	台湾	香港	中国	韓国	米国	タイ	シンガポール	オーストラリア	カナダ	ドイツ	104,635	433,602
	112,219	59,279	57,298	46,141	15,232	14,677	11,604	5,086	3,797	3,634		
令和6年 (2024年)	台湾	中国	香港	韓国	米国	シンガポール	タイ	オーストラリア	マレーシア	フランス	132,167	889,616
	296,844	177,557	110,797	80,266	25,676	22,883	21,559	8,034	7,243	6,590		

一方、史跡周辺にはガイダンス施設である田原坂西南戦争資料館があり、道の駅「すいかの里植木」、植木温泉などの観光施設も所在している。いずれの施設も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため一時来訪者が減少したが、令和5年（2023）より徐々に増加している⁴。



図■ 近年の地区別入込状況（出典：令和6年（2024年）熊本市観光統計）

植木温泉宿泊者数・組合加入施設数



図■ 植木温泉宿泊者数・組合加入施設数（出典：熊本市北区カルテ）

4 表○における植木温泉の人数は日帰り温泉の利用者数であり宿泊者数とは異なる。

第3節 歴史的環境

(1) 史跡周辺の歴史

史跡周辺の遺跡に関しては別表「周辺遺跡一覧表」の通りである。過去の調査により、最も古いものでは旧石器・縄文時代の遺跡も確認されているが、主体は平安時代前期（9世紀前半）の遺跡である。特に神ノ木川・菖蒲川流域において濃密であり、この地域の主な遺跡では土師器焼成遺構を検出した田子山遺跡、越州窯系青磁水注（市指定文化財）を供献した土壇墓を検出した塔ノ本遺跡、3×3間の礎石が並ぶ基壇が検出され塔が存在したとみられる富応廃寺が挙げられる。これらが所在する台地に囲まれ、菖蒲川によって開析された比較的広い谷部には「五反田」「六反田」と言った数詞地名（小字）が見られる。開発等によって当時の地割は不明だが、当時条里制に基づく耕地整備がなされ上記の遺跡が成立する基盤になったと考えられる。現在の植木町域は、古代山本郡の範囲とほぼ同じである。山本郡は貞観元年（859）に合志郡から分立したものであり、上記の遺跡分布の状況が分立の契機と関連があると考えられる。

周辺では中世の資料も多く存在し、埋蔵文化財のほかに寺社や石造物などが見られる。石造物は豊岡台地に多く分布しており、田原の五輪塔（市指定文化財）、舟底五輪塔（県指定文化財）など鎌倉期の五輪塔のほか、戦国期の板碑も見られる。当該地域の中世においては、寿永年間（1182～1184）創建とされる龍源寺跡や田原熊野座神社などが中世肥後最大の在地領主・菊池氏の創建と伝わっており、当該地域を含む山本郡最大の荘園（山本荘）を菊池氏が荘官職として支配していたとみられる。少なくとも平安時代末期には菊池氏の勢力が伸長していたと考えられ、植木町内に菊池氏創建と伝わる寺社が多いこともこのことを反映していると思われる。中世後期においては、菊池氏に属し、菊池氏滅亡後も戦国期末まで山本郡最大の国人領主として続いた内古閑氏の支配下にあったとみられ、大平城跡・内古閑城跡・荒平城跡などが内古閑氏の居城と伝わる。以上、中世遺跡の多くは、菊池氏・内古閑氏との関連が想定し得る。

近世に入ると、旧植木町一帯は正院手永⁵に属した。植木町は元々味取町（現 植木町字味取）から分かれたもので「味取新町」とも称され、元禄期には町としての様相を呈していたと言われる。植木町の中心を通る豊前街道からは三池往還・大津町道などが分岐していた。特に三池往還は田原坂・高瀬を経て大牟田方面へと向かう道で、ほかの街道に比べて平坦な道が続き、唯一の難所といえるのが田原坂であった。そのため西南戦争の際には政府軍の主要南下経路として選ばれ、田原坂での戦いが最大の激戦となった。

近代に入ると行政区画の改正が行われ、正院手永は「正院郷」と改められた。明治8年（1875）の段階で正院郷は第五大区七小区に属し、16村1町で構成された（水島貫之編『白川県下区画便覧』）。明治初期は地租改正や秩禄処分、廃藩置県、徴兵制など明治政府が次々に断行した政策に対し人々の不満が高まり、全国的に農民運動や反乱が問題となった。同時に政治運動も活発になり、明治8年（1875）には正院手永会所跡地（現 植木小学校）を利用して民権党⁶が「植木学校」を設立、自由民権論を主張する教育を実践した（同年10月に閉校）。翌年には同党の宮崎八郎が、戸長の公選を主張して当時の県令・富岡敬明に建議書を突き付ける事件が起きた。これを契機として山鹿町（現

5 肥後細川藩初代藩主・細川忠利が導入した行政単位。数か村～数十か村をまとめたもの。

6 宮崎八郎（宮崎滔天の長兄）、平川惟一らを中心として自由民権論を主張した集団。のちに構成員の多くが「熊本協同隊」として西南戦争に従軍する。

山鹿市)や植木町などの一帯で戸長征伐が始まり、同年に起きた神風連⁷の変と相まって熊本内での西南戦争への機運が徐々に高まっていった。

明治10年(1877)2月に西郷隆盛が鹿児島を発ち、熊本に到着。同月22日に熊本城総攻撃が始まり、同月末には別動隊が田原坂・山鹿方面に進行すると3月4日より「田原坂の戦い」が開戦した。戦闘中、近隣住民は放火や流れ弾、食料の強奪などの被害を受け、炊き出しや荷運びなどの負担も課せられた。3月20日に「田原坂の戦い」は終結するが周辺では戦闘が続き、4月14日の熊本城解放に伴い西郷軍が熊本を去ったことで徐々に復興が始まった。戦死者の埋葬についても、同年6月には轟村・円台寺村(現植木町轟、円台寺)で戦死した西郷軍兵士たちの合葬に関する手続きが行われ、現在の七本柿木台場薩軍墓地の原型が地元住民の人々の手で形作られた。

明治期の旧植木町の主産物は米・大豆・小豆・裸麦などであったが、大正時代に入ると葉煙草の耕作が始まり、大正11年(1922)ごろには山本郡全体でスイカ栽培が盛んになった。交通においては明治24年に九州鉄道が福岡まで延びたことに伴い植木駅が設置された。大正6年(1917)には鹿本鉄道が運行を始め、同13年(1924)に植木-山鹿間が開通完成し農産物・林産物などの貨物が行き交うようになった(昭和40年廃線)。

昭和30年(1955)に田原・菱形・桜井・山東・吉松・山本の各村と植木町が合併して新たな植木町が発足し、昭和44年(1969)に田底村を編入した。平成22年(2010)に熊本市と合併して現在へと至っている

史跡周辺の遺跡において最も大きな特徴は、西南戦争で主戦場となった豊岡台地上だけでない広い範囲で少量ながらも小銃弾等の西南戦争関連遺物が出土することである。銃砲弾は発射されれば数百メートル以上移動するため、出土地を戦場跡と即時判断することはできないものの、戦場が一部飛火または拡大した可能性を示すものといえる。また、豊岡台地南側の大字轟の台地上には、七本官軍墓地と前述の七本柿木台場薩軍墓地が存在している。

(2) 顕彰の歴史

西南戦争は戦後すぐに戦死者の慰霊と顕彰が始まっている。明治11年(1878)には官軍墓地が一斉に整備され、熊本市側は七本官軍墓地・明德官軍墓地・寄鶴官軍墓地が、玉東町側は高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地が現在につながる姿となった。薩摩軍側もほぼ同時期に地元の人々の手によって墓地が造成されている。

明治13年(1880)には、現在の田原坂公園内に崇烈碑が建立された。陸軍省本部が主体となり、西南戦争における田原坂の戦いの意義を高めて政府軍戦死者の顕彰を目的とした事業であった。材料には白く荘厳な印象を与える八代産石灰岩が用いられ、篆額と撰文は征討軍総督有栖川宮熾仁親王によって行われた。その後も長年にわたって西南戦争の戦跡や戦没者を顕彰・慰霊する標柱や石碑等が建立され続けた。熊本市や玉東町周辺において戦前までに建造された現存石碑等については別表のとおりである。なお、現代においても新たな顕彰碑や戦跡の案内表示、説明板などの設置が行われ、生涯学習等に供している。

7 明治9年(1876)に敬神党(別名神風連)が決起した士族反乱。熊本城下周辺に居住していた県官や陸軍将校を襲撃し、歩兵営や砲兵営に放火した。騒動は一夜で終息したが、敗走した敬神党の構成員の一部は鑑田杵築宮(植木町字鑑田)に潜伏し、同宮司たちの援助を受けながら再起を図る機会をうかがっていた。

記念碑等の建立以外では、現在の田原坂公園が大正12年(1923)4月に古戦場跡が地元有志の手によって公園化され(大正12年4月9日『九州日日新聞』)、戦後80年にあたる昭和32年(1957)には旧植木町が主体となって公園域を拡大、敷地内に両軍の戦死者の名前と出身地を刻んだ「西南役戦没者慰霊之碑」を建立した。

その後、平成25年(2013)に国の史跡に指定される以前まで、公園敷地内で記念植樹や地元ゆかりの著名人の石碑等の建立が行われた。現在では、地元の小学生や顕彰会などの手により田原坂の戦いが終結した3月20日に合わせて公園内で戦没者慰霊祭が行われている。また、指定地以外の各地でも戦没者の慰霊や西南戦争の顕彰を目的とした祭祀や講演会などが有志の手によって催されており、本市内では熊本三州会による川尻の延寿寺だにやまと段山で行われる慰霊祭、熊本城顕彰会主催の西南の役記念講演会等が代表的である。

表■ 熊本市と玉東町に現存する顕彰碑等

年	月日		場所	造立者ほか	備考
明治11年 (1878)	8月	七本官軍墓地整備	北区植木町七本	造立：陸軍省	
	不明	明德官軍墓地整備	北区明德町	造立：陸軍省	
	10月	薩軍墓地の墓標建立 (現存せず)	北区植木町轟、滴水、 荻迫、円台寺	造立：各地域住民	現在の七本柿木台場薩軍墓地 ほか
明治12年 (1879) ※三回忌	3月	「佐賀台湾熊本鹿児島 四役戦死弔魂之碑」 建立	清爽園(中央区宮内)	造立銘無し(陸軍省工 兵第六方面本署) 題字揮毫：乾堂栄(小 曾根乾堂)	
	9月4日	「斤斤其明」建立	清爽園	造立：発起人17名(熊 本県の有志) 題字揮毫：有栖川熾仁 親王 碑文撰：谷干城 碑文書：田中顕義	碑文頭「熊本県人殉難碑」、島 崎石工雨森次平
	10月25日	「丁丑殉難之碑」建立	小峯墓地(中央区黒 髪)	造立：生存者・遺族 18名(宇野東風・三 浦喜傳の名あり)	正面に池辺以下55名連記、 昭和7年3月に現在地に移建
明治13年 (1880)	10月	「崇烈碑」建立	田原坂公園	造立：陸軍省 題字揮毫：有栖川宮熾 仁親王 撰：有栖川宮熾仁親王 書：秋月新太郎	白島石灰岩製
明治15年 (1882)		薩軍墓地に墓標建立 (現存せず)	七本柿木台場薩軍墓 地		
明治16年 (1883) ※七回忌	(2月～3月)	(薩軍墓地の遺骨を遺 族が持ち帰る)	(植木町轟、滴水、荻 迫、円台寺)		
明治18年 (1885)	12月某日	「丁丑感旧之碑」建立	小峯墓地	造立：発起人宮川員衛 以下21名、周旋人相 部又七郎	正背面ほかの4面に氏名連記、 発起人には佐々友房も、元は 手取本町(大正2年移築)
明治22年 (1889) ※十三回忌		(金峰山地震)			
明治23年 (1890)	(2月22日)	(熊本籠城会の開催)	(靖国神社)		(以降、2月22日を祭日とし て恒例化)
	3月	標柱「明治十年之役 戦死者墳墓地」建立	七本官軍墓地・明德 官軍墓地・寄鶴官軍 墓地	造立：熊本県	
明治24年 (1891)	8月20日	標柱「明治十年之役 官軍戦死者墳墓地」 建立	高月官軍墓地・宇蘇 浦官軍墓地	造立：熊本県	

年	月日		場所	造立者ほか	備考
大正5年 (1916)	1月	「西南役薩軍戦歿者墓碑」建立	南区川尻延寿寺	題字揮毫：従四位勲三等川上親晴	本来は基壇に金属扉（金属供出）
	2月22日	「与倉連隊長戦跡之碑」建立	中央区宮内藤崎台童園下、旧片山邸	造立：歩兵第十三連隊将校団	近年移設（元童園敷地内）、元は基壇あり、建立日は命日
	6月4日	「西南役薩軍戦歿者合葬墓碑建設趣意之碑」建立	川尻延寿寺	造立：発起人肥後八次以下13名	西南役薩軍戦歿者墓碑の副碑
大正10年 (1921)	不明	寄鶴官軍墓地墓標再建		造立：熊本県	
大正12年 (1923)	4月8日	田原坂公園開園式	田原坂公園		
	5月	「籠城将校家族避難之跡」建立	熊本城（中央区本丸）	造立：不明	
	9月	「挙兵始末碑」建立	小峯墓地	造立：旧熊本隊生存者中	丁丑感旧之碑の左（基礎・基壇含め左右同形態）、正面の他3面に熊本隊士氏名連記、
無（挙兵始末碑と同じカ）		「自誓書碑」建立	小峯墓地	造立：不明（挙兵始末碑と同じカ）	丁丑感旧之碑の右（基礎・基壇含め左右同形態）、4面に熊本隊士氏名連記
大正13年 (1924)	6月5日	冊子『田原坂附近戦蹟案内』刊行		発行：帝国在郷軍人会木葉分会	
大正14年 (1925)	4月	「記念」碑建立	田原熊野座神社	造立：坂本 昇他当村氏子中 撰書：杉谷 正	兵火を受け鹿児島に持ち帰った御神体の返却とその記念の玉垣建設
昭和元年 (1926) ※五十回忌	6月	「忠烈」碑建立	熊本城	篆額：元帥陸軍大将伯爵奥保鞏 撰：徳富猪一郎 書：陸軍中将鑄方徳蔵	谷村計介の功績を称賛する内容
昭和2年 (1927) ※戦後50年					
不明 (昭和2年<1927> 3月10日)		「…位谷村計介」建立	熊本城	造立：不明（山下宇太郎等有志）	現存せず、金属供出（昭和18年6月12日壮行会）。鈴木喬の本参照
昭和3年 (1928)	1月11日	「伍長谷村計介戦死之地」建立	田原坂二の坂	造立：不明 題字揮毫：陸軍中将鑄方徳蔵 撰書：正七位鶴田 貞（陸軍砲兵大尉、明治28年叙位）	植木町史942・943頁に記述あり。鑄方徳蔵は熊本県出身。大本営陸軍幕僚参謀
	11月10日	「乃木大将記念碑」建立	北区植木町舞尾	造立：不明 題字揮毫：陸軍中将鑄方徳蔵 撰書：正七位鶴田 貞（陸軍砲兵大尉、明治28年叙位）	
昭和7年 (1932)	7月	「東野孝之丞戦没碑」建立	北区植木町荻迫（荻迫台場）	造立：沢田延音 題字揮毫：陸軍大臣荒木貞夫	石工は指宿村春田栄
昭和9年 (1934)	6月	「明治十年戦役南洲翁本営跡」建立	川尻	造立：鹿児島市有志35人・熊本市有志・川尻町有志	
	11月	「西南役薩軍戦死者慰霊塔」建立	段山（井芹川沿い）	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：第六師団永香椎浩平 碑文撰：丁丑感旧会長三浦喜傳	
昭和10年 (1935)	3月4日	「薩軍一番大隊長篠原国幹戦没之地」建立	玉東町原倉	造立：熊本県三州会 題字揮毫：陸軍大将田中国重	基礎背面に修理経緯文追刻、田中国重は鹿児島県出身
	5月	「壯圖弔夢（右）・遺熊子□（左）」建立	小峯墓地	造立：寄進元池辺大隊佐々中隊麾下三浦喜傳	

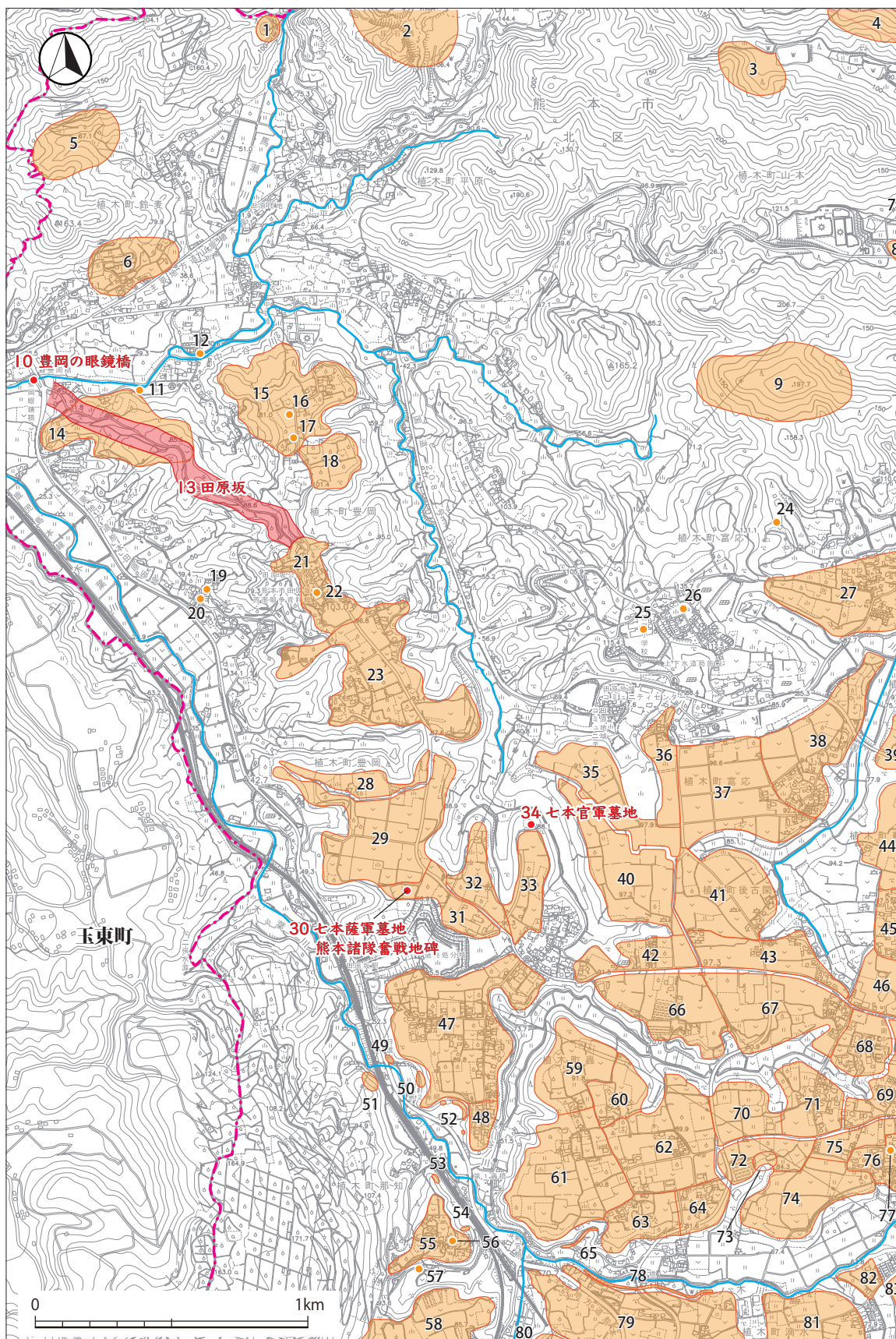
第2章 熊本市及び史跡周辺の概要

年	月日		場所	造立者ほか	備考
昭和11年 (1936)	2月22日	「熊本各隊出陣之処 碑」建立	東区健軍神社前	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 碑文撰：丁丑感旧会評 議員参戦者宇野東風 碑文書：丁丑感旧会員 松山嘉一郎	
	2月26日	「佐々隊死守之処」建 立	玉東町吉次峠	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 碑文撰：丁丑感旧会評 議員参戦者宇野東風 碑文書：丁丑感旧会員 松山嘉一郎	
	3月15日	「熊本諸隊奮戦処」建 立	七本柿木台場薩軍墓 地	造立：丁丑感旧会 題字揮毫：丁丑感旧会 長参戦者三浦喜傳 撰：丁丑感旧会評議員 参戦者宇野東風 書：丁丑感旧会員松山 嘉一郎	
	10月17日	「戦後60年碑」建立	川尻延寿寺	造立：熊本市三州人会	
昭和12年 (1937) ※戦後60年	10月	「守城將軍谷干城」建 立	熊本城	造立：西南戦争六十年 会 碑文撰：僧五岳(漢詩)	金属供出後、昭和44年再鑄
	11月	(谷村計介の銅像を譲 り受けた経緯を記し た石碑)	熊本城	造立：西南戦争六十年 会	
昭和15年 (1940) ※皇紀2600年	3月30日	「建碑の記」建立	吉次峠	造立者：発起人	安達謙蔵碑の造立経緯を記す 副碑
	4月	「克堂佐々先生詩歌之 碑」建立	吉次峠	造立：不明 書：安達謙蔵	緑泥片岩(非在地)
	4月3日	「谷村計介碑」建立	吉次峠	造立：山北村 題字揮毫：元山北校長 三池 弘？ 撰：山北村長坂田武彦 書：元山北校長三池 弘	
昭和17年 (1942)	4月	「山縣有朋歌碑」「建 碑ノ記」建立	北区植木町木留	造立：西南戦蹟顕彰会	
	7月	「熊本隊本営跡」「薩 軍本営跡」「薩軍病院 跡」「乃木大将詩碑」 建立	北区植木町笹尾	造立：西南戦蹟顕彰会	
昭和18年 (1943)	3月	「西南役激戦蹟」建立	横平山公園	造立：西南戦蹟顕彰会 題字揮毫：西南戦蹟顕 彰会長赤星典太 撰：西南戦蹟顕彰会理 事・陸軍大佐小島徳貞	
		「西南役官軍本営出張 所跡」「西南役官軍砲 兵陣地跡」建立	玉東町二俣瓜生田	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「西南役官軍砲兵陣地 跡」建立	玉東町二俣古閑	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「西南役薩軍砲兵陣地 跡」建立	玉東町立岩	造立：西南戦蹟顕彰会	

年	月日		場所	造立者ほか	備考
昭和18年 (1943)	10月	「薩軍砲兵陣地(趾)」 建立	玉東町稲佐神社	造立：西南戦蹟顕彰会	大形・基壇は自然石組み
		「漢詩碑」建立	高月官軍墓地	造立：西南戦蹟顕彰会	依田百川による松少佐を称える詩
		「官軍本営趾」建立	玉東町上木葉	造立：西南戦蹟顕彰会	
		「征討総督有栖川宮督 戦趾」建立	丸田公園	造立：西南戦蹟顕彰会 題字揮毫：細川護立 撰：西南戦蹟顕彰会理事・陸軍大佐小島徳貞	大形、碑身は上細・下太、基壇幅広い、銘板は平成8年改修
昭和32年 (1957) ※戦後80年		田原坂公園拡張整備、 「西南役戦没者慰霊之 碑」建立			
不明		「小峰陸軍埋葬地(3 面同じ)」建立	黒髪	造立：不明	
不明		歩兵十三連隊第三大 隊第一中隊下士兵卒 中(右) 歩兵十三連隊第三大 隊第二中隊下士兵卒 中(左)」建立	清爽園	造立：不明	
不明		「西郷隆盛先生本営之 趾」建立	北岡神社	造立：不明 題字揮毫：陸軍大将菱 刈隆	菱刈の大将在任は昭和4～ 10年
不明		「西郷隆盛先生本営之 趾」建立	二本木神社	造立：不明 題字揮毫：海軍大将山 本英輔	山本(鹿兒島出身)の大将在 任は昭和6～11年
不明		「灯笼1対(銘無し)」 建立	川尻延寿寺	造立：不明	豊島石製(非在地石材)
不明		「乃木第十四連隊長奮 戦趾」建立	玉東町稲佐	造立：不明	脇の稲佐神社鳥居は山口小柳 文七建設
不明		「西南戦蹟塹壕趾碑」 建立	横平山公園	造立：不明	
不明		「田原坂攻撃官軍第一 線陣地趾」建立	玉東町境木	造立：不明	
不明		「官軍病院趾」建立	正念寺	造立：不明	
不明		「官軍病院趾」建立	徳正寺	造立：不明	

第4節 史跡周辺の文化財

(1) 周辺遺跡一覧



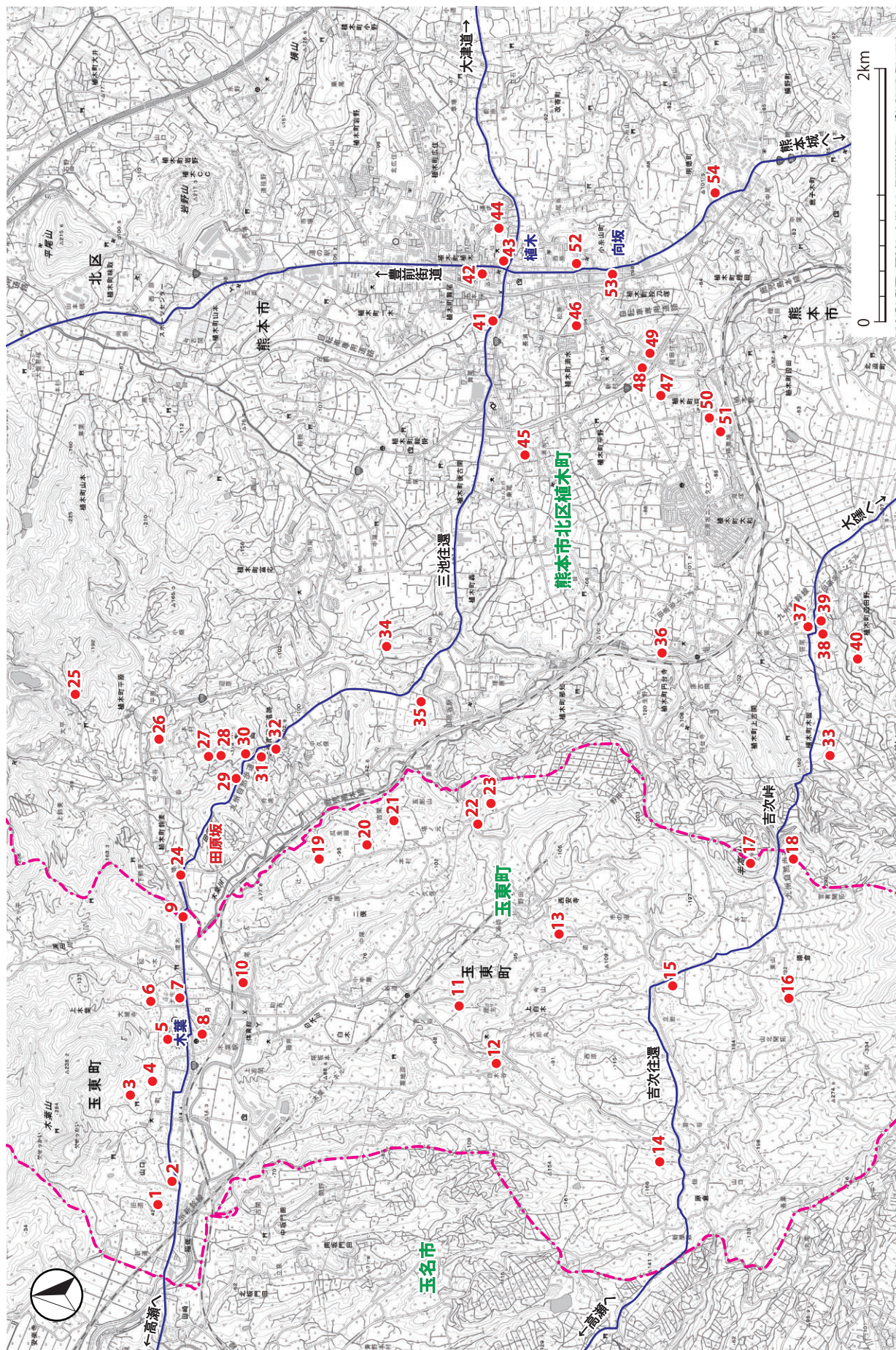
図■ 周辺遺跡分布図

表■ 周辺遺跡一覧

※番号は図■に対応

番号	名称	主な時代	番号	名称	主な時代
1	鈴麦浦田遺跡	古代	42	田子山遺跡	縄文・平安
2	大平城跡	中世	43	迎畑遺跡	縄文・弥生・平安・中世
3	正院浦遺跡	平安	44	後野遺跡	縄文・平安・中世
4	内空閑城跡	中世	45	鞍掛山遺跡	中世
5	平須恵器窯跡群	平安	46	南畑遺跡	縄文・平安・中世
6	鈴麦平畑遺跡	古代・中世	47	埋原畑遺跡	縄文・平安・中世
7	北楠原遺跡	平安	48	埋原城跡	中世
8	南楠原遺跡	平安	49	埋原1号洞穴	弥生～古代
9	荒平城跡	中世	50	埋原2号洞穴	弥生～古代
10	豊岡の眼鏡橋	江戸	51	那知1号洞穴	弥生～古代
11	谷の板碑	中世	52	埋原3号洞穴	弥生～古代
12	谷の眼鏡橋	昭和	53	那知2号洞穴	弥生～古代
13	田原坂	明治	54	那知3号洞穴	弥生～古代
14	岡林遺跡	縄文・中世	55	龍原寺跡	中世
15	田原城跡 田原寺跡	平安・中世	56	龍原寺跡板碑	中世
			57	龍原寺跡十二仏龕仏	中世
16	田原古墳	古墳	58	生野原遺跡	縄文・平安・中世
17	田原の五輪塔附板碑	中世	59	轟芝原遺跡	縄文・弥生・平安
18	宮ノ前遺跡	中世	60	五次郎丸遺跡	平安・中世
19	舟底の十一面観音立像	室町	61	轟辻畑遺跡	縄文・平安・中世
20	舟底五輪塔附板碑	鎌倉	63	下道丸遺跡	縄文・中世
21	舟底遺跡	古代・中世	64	轟城跡	中世
22	田原坂公園板碑	室町	65	轟横穴群	古墳
23	藤原遺跡	縄文・平安・中世	66	轟田中原遺跡	縄文・弥生・平安
24	富応廃寺	古代	67	塔ノ本遺跡	旧石器～弥生・奈良～中世
25	穴観音古墳	古墳			
26	丸塚古墳	古墳	68	乗尾遺跡	弥生
27	西山遺跡	縄文・平安・中世	69	大道端遺跡	縄文・弥生・平安・中世
28	中久保遺跡	縄文・鎌倉・室町	70	轟今古閑遺跡	弥生・古墳・平安
29	立花木遺跡	縄文・平安・中世	71	轟遺跡	弥生・古墳・平安
30	七本薩軍墓地 熊本諸隊奮戦地碑	明治	72	尖り遺跡	縄文・弥生・奈良～近世
			73	城之内古墳	古墳
31	鎌地遺跡	中世	74	滴水西原遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
32	柳迫遺跡	縄文・中世	75	内山遺跡	縄文・弥生・平安・中世
33	多尾遺跡	縄文・平安・中世	76	滴水館遺跡・滴水館跡	縄文～中世
34	七本官軍墓地	明治	77	無名墳	古墳
35	富応田中原遺跡	旧石器・縄文	78	ヲスギ横穴群	古墳
36	外土井遺跡	縄文・平安	79	ヲスギ遺跡	縄文・弥生・平安・中世
37	富応久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世	80	河原立遺跡	縄文・弥生・平安・中世
38	富応芝原遺跡	平安	81	滴水向原遺跡	縄文
39	原口遺跡	縄文・平安・中世	82	松村刀鍛冶跡	江戸
40	沖野遺跡	縄文・平安	83	平野西原遺跡	弥生・平安・中世
41	後古閑立野遺跡	縄文・弥生・平安・中世			

(2) 周辺の西南戦争関連資料一覧



図■ 周辺の西南戦争関係資料分布図

表■ 周辺の西南戦争関係資料一覧

※番号は図■に対応、名称は通称

番号	名称	番号	名称
1	稲佐神社（薩軍砲台跡）	28	田原熊野座神社（宮ノ前戦跡、社殿・鳥居・灯笼等に弾痕・銃砲弾）
2	乃木希典奮戦の地碑	29	谷村計介之碑・西南の役戦没者慰霊碑
3	宇蘇浦官軍墓地	30	弾痕の家（松本家土蔵）跡地
4	徳成寺（政府軍繻帯所）	31	田原坂公園北側（戦跡、崇烈碑、大クスに金属反応）
5	丸田公園（有柄川宮督戦の地碑）	32	田原坂公園南側（戦跡、80周年慰霊碑）・田原坂西南戦争資料館
6	上木葉官軍本営跡	33	山縣有朋歌碑
7	正念寺（政府軍繻帯所、山門・石段等に弾痕・小銃弾）	34	七本官軍墓地
8	高月官軍墓地	35	七本薩軍墓地・熊本諸隊奮戦地碑（薩摩軍七本柿木台場跡）
9	田原坂攻撃官軍第一線の地碑	36	河原立薩軍墓地
10	櫻田惣五郎（熊本隊参謀）辞世詩碑	37	薩軍病院跡
11	上白木弾痕の家跡（柱に砲弾痕、現田原坂資料館展示）	38	熊本隊本営跡
12	薩軍三勇士の墓	39	薩軍本営跡
13	白山宮（灯笼に弾痕）	40	辺田野熊野座神社（乃木希典詩碑、社殿に弾痕）
14	原倉西官軍砲台跡	41	乃木大将記念碑（伝千本桜）
15	立岩砲台跡	42	薩摩軍弾薬庫跡
16	篠原国幹戦没の地碑	43	植木学校跡（植木学校指導者が後に熊本協同体を結成）
17	半高山公園（半高山戦跡）	44	仁連塔神社（社殿に弾痕・小銃弾）
18	吉次公園（吉次峠戦跡、佐々友房の詩碑・谷村計介碑）	45	滴水官軍本営跡
19	二俣瓜生田官軍砲台跡	46	石塔台場跡（近くの墓地の墓石に弾痕）
20	官軍本営出張所跡（石積に弾痕）	47	荻迫柿木台場、薩摩軍美少年の墓
21	二俣古閑官軍砲台跡	48	山頭遺跡第4次調査地（政府軍陣地跡）
22	薩軍兵站の地	49	山頭遺跡第5次調査地（薩摩軍陣地跡）
23	横平山公園（横平山戦跡）	50	荻迫観音（石祠に弾痕）
24	豊岡の眼鏡橋（政府軍攻撃基点）	51	荻迫神社（社殿に弾痕・小銃弾）
25	平原の民家跡（柱に小銃弾）	52	植木天満宮（向坂緒戦の地跡）
26	豊岡小学校跡地（北平古道戦跡）	53	河原林少尉戦死の碑
27	田原の五輪塔（弾痕多数、近くの墓地の墓石にも弾痕）	54	明徳官軍墓地（向坂官軍墓地）

